

論文要旨説明書

報告論文のタイトル：ソーシャルネットワーク時代における新しいロビイングの在り方

報告者・共著者（大学院生は所属機関の後に（院生）と記入してください。）

報告者氏名：岩本 隆

所属：慶應義塾大学

共著者 1 氏名：酒井 光郎

所属：日本パブリックアフェアーズ協会

共著者 2 氏名：双津 森雄

所属：日本パブリックアフェアーズ協会

共著者 2 氏名：東 祐子

所属：日本パブリックアフェアーズ協会

論文要旨（800 字から 1200 字、英文の場合は 300 から 450 語）

2010 年代に入ってから第四次産業革命が世界中で進行し、世界全体が産業構造の変革期に突入している。そういった環境下、企業にとっては、事業構造変革のための新事業創造が重要経営課題となっているが、新事業を創造するに当たっては新産業・新市場の創造から仕掛けていく必要があり、そのためには産業政策との連携、つまりロビイングが重要となる。一方で、ソーシャルネットワーク時代では、従来型の密室でのロビイングは結果的に批判を浴びやすく機能しなくなってきた。この状況を打破するために、新しいロビイングの在り方として「パブリックアフェアーズ (PA : Public Affairs)」という概念を提唱し、産学政官が連携してオープンに政策の議論を進めることで、世の中も理解・納得し、企業にとっても社会にとっても有益な政策が策定される方法論の体系化を進めてきた。具体的には、2019 年 2 月にパブリックアフェアーズの産業化を目的として設立した一般社団法人日本パブリックアフェアーズ協会で行ってきたパブリックアフェアーズ活動の複数の成功事例の研究から、新しいロビイングのアプローチについて体系化を行った。

政策提言に当たっては、まずはエビデンスに基づいた客観的、論理的、定量的な政策レポートを作成することが重要である。その政策レポートを元に、戦略的な PR (Public Relations) 活動を通して、ソーシャルネットワークによる批判に耐え得る世論形成を行う。世の中の理解・納得を得た上で、戦略的に政策関係者を巻き込み、議論を深めていく。政

策関係者は主には国会議員などの政治家と大臣や官僚などの政府関係者となるが、テーマによって、政治家からアプローチしていくか、政府関係者からアプローチをしていくかが異なる。政策関係者の巻き込みは GR（Government Relations）活動であり、パブリックアフェアーズ活動は戦略 PR と戦略 GR とを両輪として進めることが重要である。